

15 気兼ねなく使える「みんなのトイレ」に

(性的マイノリティ)

(ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもとこがお届けします。

5 最近、まちなかで「みんなのトイレ」と書かれた多目的トイレを目にすることが増えてきました。

10 その一つとして注目されているのが、博多マルイにある「みんなのトイレ」です。入口に、車椅子やオストメイトのマークと並んで、「レインボーフラッグ」が描かれています。レインボーフラッグとは、性的マイノリティの方々々が差別や偏見にさらされず生きていくことができる社会を目指す象徴です。なぜ、これを描いたのでしょうか？

15 きっかけは、社内研修やLGBT啓発イベントに参加する中で出会った、トランスジェンダーの人たちの声だったそうです。

20 「買い物の際に、どのトイレを使うか迷って我慢してしまう」多くのトランスジェンダーの方が悩んでいました。たとえば、自分は男性だからと、男性トイレを使う人もいれば、周囲の目が気になって女性トイレを使う人もいます。また、どちら

にも抵抗を感じ、みんなのトイレを使う人もいるのです。

25 気になるのは、周囲の目。「みんなのトイレは車椅子の方
どが使うイメージがあつて、注意されそうで怖い」と思つた
り、「みんなのトイレを使うと、カミングアウトすることにな
りそうで勇気が出ない」と心配する声もありました。

30 さまざまな意見を受けとめた博多マルイは、男性用と
女性用とみんなのトイレを、すべての階に設置しました。「L
GBTとひとくくりにするのではなく、一人一人の意見や感
じ方はそれぞれ違う。この人はこのトイレ、と決めつけるの
ではなく、当事者が自分の使いたいトイレを選べるようにし
よう」との想いを込めています。

35 これを見て、「気分的に利用しやすくなった」と安心する声
や、「隠さなくていいんだ。受け入れてくれる環境がある、と
思わせてくれた。」と喜ぶ声が聞かれたそうです。

40 性的マイノリティの方だけに限らず、誰でも、どこでも、
使いたいトイレを気兼ねなく使える社会になるためには、
多様な当事者が私たちのすぐそばにいることを理解し、周囲
の目が変わっていく必要があります。

レインボーフラッグを描いた博多マルイの「みんなのトイ
レ」には、そんなメッセージが込められています。